

令和5年度「慢性の痛み解明研究事業」における事後評価について

令和6年7月

国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
疾患基礎研究事業部 疾患基礎研究課

事後評価は、各課題の研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

慢性の痛み解明研究事業では、本事業における事後評価の評価項目に沿って、課題評価委員会において、書面・ヒアリングによる事後評価を実施しました。

●総評

本研究事業では、原因が明らかでなく対応に苦慮する痛みや、適切な対応を行っているにもかかわらず残存する痛みを対象に、画期的治療法を開発する上での客観的指標に基づく介入群の設定あるいは治療法に資するシーズを発見することを目標としています。

●対象3課題(令和5年度終了)

「侵害可塑性慢性疼痛の脳内成立機構解明とその予防戦略の神経基盤探索」は、痛覚変調性疼痛の病態機構解明を進める上で、マウス脳透明化技術の導入によって痛覚変調性疼痛の脳内経路の可視化に成功し、ヒト病態機構の解明に貢献するデータを創出されたことが評価されました。

「新規シナプス分子に着目した神経障害性疼痛の病態機序の解明とその予防および治療薬創出を目指した研究」は、BEGAIN の分子機序の解明から、創薬に繋がる研究成果を得て、更なる発展が期待されます。

「AMPA 受容体密度を指標とした慢性疼痛患者の痛み定量化バイオマーカー開発研究」は、慢性疼痛患者を対象に AMPA 受容体 PET 検査を実施し、受容体密度の増加した脳領域を見出したことが評価されました。

研究開発課題名	研究開発代表者名	所属機関	役職
(公募課題名) 痛みの慢性化の機序解明と予防法の開発に関する研究			
侵害可塑性慢性疼痛の脳内成立機構解明とその予防戦略の神経基盤探索	加藤 総夫	東京慈恵会医科大学	教授
新規シナプス分子に着目した神経障害性疼痛の病態機序の解明とその予防および治療薬創出を目指した研究	片野 泰代	関西医科大学	准教授

(公募課題名)慢性疼痛の客観的・定量的評価法の確立に向けたシーズ探索に関する研究			
AMPA 受容体密度を指標とした慢性疼痛患者の痛み定 量化バイオマーカー開発研究	宮崎 智之	横浜市立 大学	教授

●評価のスケジュール

書面審査実施期間	令和6年5月17日(金)～6月6日(木)
面接(ヒアリング審査) 審査	令和6年6月17日(月)

●課題評価委員 名簿

NO	課題評価委員	
	氏名	所属・役職
1	上野 雄文	国立病院機構 肥前精神医療センター 院長
2	大野 裕	認知行動療法研修開発センター 理事長
3	小幡 英章	埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 教授
4	河野 達郎	国際医療福祉大学 麻酔科 教授
5	清水 栄司	千葉大学 大学院医学研究院 認知行動生理学 教授
6	田辺 久美子	東海国立大学機構 岐阜大学 大学院 医学系研究科 准教授
7	○中島 八十一	四徳学園 長野保健医療大学 特任教授
8	細井 昌子	九州大学 九州大学病院 心療内科・集学的痛みセンター 副センター長
9	松原 貴子	神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授
10	◎宮坂 信之	東京医科歯科大学 名誉教授
11	森岡 徳光	広島大学 大学院医系科学研究科薬効解析科学 教授

※氏名の前の符号は、◎は当委員会委員長、○は当委員会副委員長であることを表示。

●PS・P0 名簿

役割	氏名	所属・職名
PS	眞下 節	大阪大学 名誉教授／市立豊中病院 顧問
P0	牛田 享宏	愛知医科大学 医学部 学際的痛みセンター 教授
P0	天谷 文昌	京都府立医科大学 医学部医学科疼痛・緩和医療学教室 教授
P0	中江 文	国際電気通信基礎技術研究所 石黒浩特別研究所 主任研究員

●評価項目

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果

- ③実施体制
- ④今後の見通し
- ⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥総合評価

以上